

事例研究…アジアにおけるアスベストに対する労働組合の活動

今日、建設労働者の毎年の死亡数は、落下事故よりも、過去のアスベスト曝露によるものの方が多い。現在の危険な曝露により、すでに多くの命を奪っている疾病の流行が今後も続くであろうことは間違いない。現在のアスベスト消費の九〇％は、開発途上国で用いられているアスベスト・セメント建材であり、アジアの建設労働者は、長い潜伏期間の後に発病するアスベスト関連の病気になる深刻なリスクにさらされている。国際建設・林業労組連盟(BWI)の安全衛生環境ディレクター、フィオーナ・ムーリーは、アジアの建設労働者の影響の受けやすさを懸念している。

「アジアの建設労働者の大部分は、規制の届かない非公式な産業分野で劣悪な条件下に働いており、アスベスト・セメントを他の建材と同じように見なしている。彼らはマスクもせず、防護装備もなく、訓練も受けておらず、病気になるっても会社からも政府からも補償手当てを受けることができない。アスベストを含む建物の保守、修理、及び解体作業中に曝露するかもしれない労働者を守るために、建設環境でのアスベスト使用を直ちにやめる必要がある。」

二〇年近く前、国際建設・林業労組連盟(BWI)は、アスベストの世界的禁止を最優先事項に指定した。それ以来、アスベストに関するBWIの活動は、国及び地域レベルで行われており、三者会談を持ち、国際機関との討議及びNGOや他の労働組合とのキャンペーンを实

* [原注92] 国際建設・林業労組連盟(BWI)は、国際的な労働組合連合であり、135か国、350労働組合、約1,300万人の組合員を代表する。

施してきた。BWIは四つの主要な領域に目を向けている。

・世界のアスベスト製造者による市場キャンペーン及びジャカルタやモントリオールにおける二〇〇六年の会議のような産業側後援のイベントに果たしているカナダ政府の役割。

・より安全な代替物質の利用可能性。WHO-IARCによる評価は、セルロース、ポリビニル・アルコール(PVA)、パラ・アラミッド、及びポリプロピレンなどの代替物質はクリソタイルよりも安全であることを確認している。

・労働者と最終使用者を危険な曝露から守る。二〇〇六年六月に採択されたILOアスベスト決議は、アスベストの安全な使用などありえないと明確に述べているので、これは大きな勝利である。いたるところでのアスベスト・セメントの使用は、とくにそれらを切断し、破砕し砕き、のこぎりで切り、穴を開ける労働者、またアスベスト製品を取り扱う労働者らの労働衛生にとって、重大な課題である。

・アスベストによる危害を受けた人々の権利、早期診断のための医学的調査、治療と補償。

アジアにおけるBWIのアスベスト禁止キャンペーンの影響力の強さは、加盟組織が達成したことによってうかがい知ることができる。

フィリピン：二〇〇五年七月五日、BWIフィリピン加盟労組協議会はフィリピン・アスベスト禁止ネットワーク(PBAN)の立ち上げに参加した。二〇〇六年、BWIのもうひとつの加盟組織である労働組合連合(ALU)は、全国アスベスト訓練プログラムを立ち上げ、国のアスベスト禁止を制定するようフィリピン大統領に請願した。この要求に対応して環境天然資源省(RTD)は円卓会議による討議を開催したが、その間、ALUは、アスベスト被害者の

社会的な保護及びアスベストに汚染された公共施設の監視と解体のための効果的な措置が欠如していることを強調した。円卓会議開催中、環境天然資源省(RTD)は、アスベストの規制、使用、及び処分のような問題の討議を望み、アスベスト禁止についての要求を軽視しようとしたが、ALUはアスベストの段階的廃止、あるいはアスベスト禁止を議論の中心に据えることに力を注いだ。

マレーシア…二〇〇四年、スバ木材産業従業員組合、サラワク木材産業従業員組合及び木材労働組合を含むBWIMレーシア加盟労組は、国際労働者記念日(IWMD)に共同でアスベスト禁止行動を行った。翌年、BWIM本部の幹部が、アスベストの世界的禁止の問題、及びマレーシア政府がこの目標を達成するための地域キャンペーンで果たすことができる役割について、人的資源省と討議の場を持った。地域内のいくつかの加盟組織はマレーシアとインドネシアのカナダ大使館と領事館に対して、カナダ政府による親アスベスト団体支援に抗議して請願書を出した。二〇〇七年のIWMDに、アスベスト禁止問題が政治家、労働組合幹部、及び雇用主協会の代表によるハイレベル会議の議題となり、またそれは連邦政府の新たな行政センターであるプトラジャヤにおける労働組合活動家一、〇〇〇人の大集会で行われた基調演説のテーマでもあった。

韓国…二〇〇〇年以来、BWIの加盟組織である韓国建設産業労働組合連合会(KFCITU)を含む韓国の労働組合は国のアスベスト禁止を働きかけている。現場訪問を行ったKFCITUの地域幹部はアスベスト製品は使用されていないことを確認した。全南東部KFCITUの幹部がアスベストが現地で使用されていることに気がついて警告の手紙を出すと、会社

は即座にその汚染物質の使用を止めた。アスベスト使用の禁止はKFCITUの団体交渉協定の一部をなしているわけではないが、労働安全衛生協定に反映されている。

インド…二〇〇六年一〇月、BWIの八加盟労組の一七人は、タミルナードウ州チェンナイで開催された労働安全衛生セミナーに参加し、アスベストの危険性を労働者及び市民に知らせるための活動、アスベスト禁止に関し医療関連団体と連携を結ぶための戦略、全国アスベスト会議（二〇〇七年）の計画、及び地域と全国レベルでの政治的働きかけの必要性について等の討論が行われた。非アスベスト屋根材製造者による会議での発表は、より安全でコスト的に入手可能な代替品がインドにあることを明らかにした。二〇〇六年一月、「アスベスト禁止キャンペーン」が五日間のインド社会フォーラムの議題となった。

その他の地域の加盟組織…二〇〇五年から二〇〇六年を通じて、BWI傘下組織による他のアスベスト関連イベントがネパールとバングラデッシュで開催された。二〇〇六年四月二八日、BWIと労働者を代表する他の連合がアスベスト禁止キャンペーンをIWMの重要議題にした。数十か国でBWIメンバーは「カナダ政府が、インド、ジンバブエ及びブラジルのような開発途上国にアスベストの積極的な売り込みと推進を行うことを止めるよう求め、カナダ大使館と領事館に対して平和的なデモと請願を行った。」

二〇〇七年のIWMのテーマは職業がんであったので、アスベストは再度、ハイレベル会議、地域集会、及び市民のイベントの議題となった。ジュネーブで「がんゼロ」キャンペーンを立ち上げて、国際建設・林業労組連盟事務局長のアニータ・ノルマークは次のように述べた。

「職業がんは、他の労働関連疾患や事故よりも多い労働関連死における最も共通的な原

* [原注93] この会議に参加したBWI支部は、AIKTMS(全インド建築建設労働者組合)、INRLF(インド全国地方労働者連合)、KKNTC(Kerala Kaltide Nirmana Thozhilali)、SGEU(Shevaroy's General Employees Union)、TMKTS(Tamil Maanila Thozhilalar Sangam)、UNIFRONT、RWO(Rural Welfare Organization)、MBLKS(Maharashtra Construction and Wood Workers' Union)。

** [原注94] Occupational Cancer/Zero Cancer: a union guide to prevention, available at www.imfmetal.org/cancer

因であるが、規制当局や雇用主らはこのことを真剣に考えていない。アスベストだけでも毎年、推定一〇万人が死亡している。死をもたらずアスベストを禁止するためのわれわれのキャンペーンは勢いがついてきているが、世界中の数百万の建物と職場にすでに存在するアスベストへの曝露を防ぐためにもっと多くのことをする必要がある。」

BWIの「建設・木材産業におけるがん・ファクトシート」は、国家の基盤設備に隠された汚染製品によって及ぼされる危険について警告している。

「すでに建物に設置されているアスベストのために、アスベスト管理計画が準備され、監視され、遵守されるべきである。雇用主は建物の中のどこにアスベストが存在するのか知っているべきであるし、記録が保管されるべきであり、もしそれらがかき乱される可能性が少しでもあるなら、労働者らはその存在を確実に知らされるべきである。アスベスト曝露の可能性がある全ての作業は適切に訓練を受け防護された作業者によってのみ実施されるべきである。粉じんのレベルは可能な限り低く保たれるべきである。作業者は適切な健康調査を受け、全ての曝露はアスベスト登録に記録されるべきである。」

アスベスト屋根材、パイプ、タンク、及び樋材のより安全な代替物質に関し、BWIウェブサイトは、二一世紀にはアスベストを使用する正当性はどこにもないという強固な主張をしている。

* [原注95] www.imfmetal.org/pdfs/cance-in BWI.pdf

<http://www.bwint.org/pdfs/cance-in BWI.pdf>

** [原注96] <http://www.bwint.org/pdfs/asbestossubstitutes.pdf>